

# 肉用牛の周年親子放牧の勧め



平成30年3月  
一般社団法人 日本草地畜産種子協会

## 周年親子放牧の推進目的と成功条件

1. 放牧は、牧草を直接牛に採食させ糞尿は草地に還元される資源循環型農業です。屋外の放牧地で家畜を1年中飼養する周年放牧は、牛舎内飼養と比べて給餌や排せつ物処理等の作業労働が著しく削減され飼養規模の拡大と収益向上、そして国土の有効活用の促進が期待されます。他方、放牧は牛と飼い主の距離を遠ざけ、家畜の生産性の低下をもたらすリスクも孕んでいます。
2. 周年親子放牧のもとで、生産性を低下させず穏やかな良い牛づくりを実現するためには、①分散しないひとまとまりの放牧用地の確保、②草地基盤の整備、③季節安定性の高い放牧草地の造成、④冬季粗飼料の確保、⑤毎日の集畜等を通じた放牧牛と飼い主との信頼関係の構築、このほか、⑥信頼関係構築のために集畜と馴致を行う簡易捕獲施設や別飼施設などの設置、⑦放牧環境下での衛生管理、放牧に伴うリスクの認識と適切な対処等が必要です。

## 周年親子放牧のメリット

通常の妊娠牛を対象とする季節放牧では、舎飼飼養牛が減少することにより、給餌や排せつ物処理作業が低減します。しかし、子牛が放牧できなければ、授乳中の親牛も舎飼飼養せざるを得ません。また、冬季はすべての牛を牛舎で飼養するため、省力化の効果は限定され、飼養頭数は牛舎のキャパシティに左右され、規模拡大を図ることはできません。

子牛も含めすべての牛を周年放牧することにより、顕著な省力化と、牛舎の広さに左右されないで飛躍的な規模拡大が図れます。

**成功条件（１）**－1頭あたり20a以上のひとまとまりのある放牧用地の確保－小さな放牧地が分散している場合は、日々の牛の観察や馴致、補助飼料や水の給与、転牧に必要以上に労力を要し、牛と飼い主との信頼関係を築き難くなる。親子放牧を行う上で、放牧用地の団地化と牛を移動させない定置放牧が望ましい。その際の面積は繁殖牛10頭であれば最低でも2ha以上のまとまった放牧用地の確保が必要。

**成功条件（２）**－牧草播種前に必要な放牧用地の基盤整備－牧草地作りは放牧の基本。良い草地を作り維持するためには、牧草播種前の放牧用地の基盤整備、立地条件に適した草種の選定、適切な放牧頭数の把握が重要。草地の整備として、牧草播種前に、水田では排水対策、里山では雑木の伐採は不可欠。

**成功条件（３）**－立地条件に適した草地の造成と維持－東北以北や高標高地帯の寒冷地では寒地型牧草のケンタッキーブルーグラスを秋季に、関東以南や低標高地帯の温暖地では暖地型牧草のバヒアグラス、センチピードグラス、シバ等を春季に播種。草地維持に最適な放牧頭数を把握するとともに、牛の食べない雑草や毒草は早期に除去。

**成功条件（４）**－冬季放牧－耕種農家と良好な関係を構築し、冬季飼料として良質なWCS用稲や牧草サイレージを調達。WCS用稲は蛋白不足を補うヘイキューブや大豆粕の補給が必要。また、原木椎茸生産者等と連携し、ネザサのはびこる里山を冬季放牧地として利用することも有用。

**成功条件（５）**－放牧牛と人との信頼関係の構築－放牧飼養は牛と人との関係が希薄になるリスクを伴う。人が来ても穏やかな牛、必要な時に無理なく捕獲することが必要。毎日の補助飼料の給与や給水、その際の声掛け等を通じて、放牧牛に飼い主の存在を意識させ、信頼関係を築くことが重要。

**成功条件（６）**－簡易管理施設－放牧牛の集畜と観察を日々円滑に行うため、簡易管理施設は必要。寒冷地では冬季の防風・防寒施設、温暖地では夏季の避暑場所としても有効。

**成功条件（７）**－放牧衛生と放牧リスクの認識－放牧飼養下では思いもよらない事故にあうこともある。とくに有毒植物等の採食による中毒症や冬季放牧時の転落事故に注意が必要。また寄生虫がもたらす疾病は、放牧環境下で発生しがち。こうした放牧に伴うリスク情報を共有し、衛生レベルが高く投薬の少ない安全・安心な放牧を目指す。

## 周年親子放牧実践例（１）春日牧場（北海道）

牛との信頼関係を築き 1 人で 100 頭の繁殖牛とその子牛の周年放牧を寒冷地で実現

- ・牛のストレスを取り除く努力により信頼関係を構築、コントロールの効く牛の放牧管理
- ・牧草放牧と道内産チモシーの不断給餌、新鮮な水の入替え（冬季は温水給与）、横臥床の保温により、幅と深み、体高のある牛を育成
- ・慣行比 5 分の 1 の作業労働、6 割減のコストで子牛生産を実現



放牧地で休憩する牛（鼻環や頭絡なし、人が近づいてもゆったり構える）草架で良質チモシーを十分給与



真冬の牧場（-20℃、朝日が差し込むとしばらく日に当たる。夜間は堆肥舎で休息。堆肥の熱で腹が冷えない）



給水桶の傍らで牛を観察する春日さん。粗飼料のみの飼養で深みのある牛を育成。

## 周年親子放牧実践例（２） 柏木牧場（岩手県）

自給粗飼料を給与しながらストレス与えず丈夫な子牛の省力生産を実現

- ・ 自給の乾草ロールやコーンサイレージを給与しながら冬季も親子放牧を実施
- ・ 人工乳や代用乳は使わず、子牛だけが通れる隙間を活用して親子分離柵を設置し、子牛は放牧草と母乳以外にも濃厚飼料とコーンサイレージを自由採食させ、子牛増体は良好
- ・ スタンションは首を痛めるので使わず、ストレスになるので鼻環はつけず除角もせず、丈夫な子牛を生産



自給の乾草ロールやコーンサイレージを給与しながら冬季も定置親子放牧を実施。

分娩予定の 10 日前に牛舎に入れて分娩。分娩後 20 日程経ったら真冬でも親子放牧。



子牛だけが通れる隙間を活用して、親子分離柵を設置。

子牛は放牧草と母乳以外にも濃厚飼料とコーンサイレージも自由に採食

### 周年親子放牧実践例（3） 富貴茶園（大分県）

里山の草地造成と1日2回の集畜、子牛馴致により収益性の高い放牧畜産を実現

- ・ひとまとまりの里山での定置放牧により周年親子放牧を実施
- ・里山の雑木を伐採粉碎後、一部を焼却し、バヒアグラスを播種、蹄耕法により草地に造成し、1頭あたり50aのバヒアグラス草地で8か月間粗飼料補助なしの放牧飼養を実現
- ・冬季4か月間の補助飼料として利用するため、耕畜連携により稲WCSを調達
- ・1日2回の集畜とふすま給与により健康状態等の確認と牛との信頼関係を構築
- ・出生直後から、子牛に触れながら馴致することにより、コントロールの効く子牛放牧を実現
- ・畜舎なしの周年親子放牧飼養による、慣行比7割減の省力化とコスト5割減の子牛生産



急傾斜の里山にバヒアグラス草地を造成し周年親子放牧。馴致されているため鼻環や頭絡なしでも捕獲可能

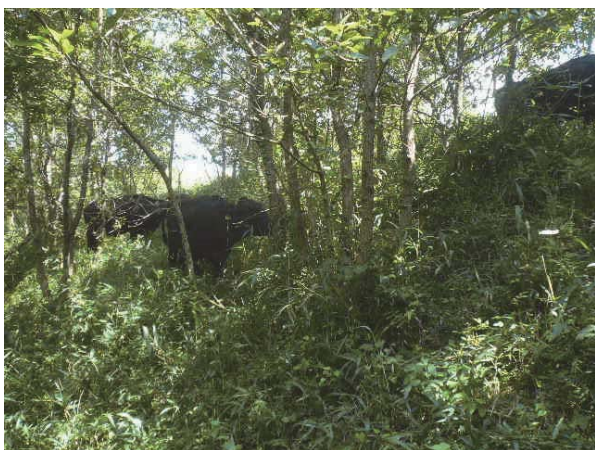


子牛の馴致：生まれた日に必ず触り、翌日から親牛給餌の際に綱を架けてスタンションにつなぐ。1週齢頃からスタンション越しに飼料を食べさせる。最初はスタンションに入らないので、首にロープを掛け引っ張って入れる。

## 林畜複合による周年放牧実践例（４）小野牧場（大分県）

クヌギ林放牧で里山活用と所得安定性の高い日本型アグロフォレストリーを実現

- ・ 里山を、椎茸用の原木生産と家畜飼養の２つの場として有効活用
- ・ 繁殖牛を、子牛生産とクヌギ林の下草管理の２つの手段として有効活用
- ・ 冬季作業の多い原木椎茸生産と、夏季飼料作業の多い家畜生産による、林畜複合経営で周年就労機会を確保
- ・ クヌギ林での肉用牛周年放牧により、椎茸と子牛生産の両部門の作業省力化と経費節減を実現
- ・ 家族経営で里山 20ha の利活用と繁殖牛 20 頭の飼養を実現
- ・ 子牛や椎茸価格が変動するなかで、林畜複合経営により安定的所得を確保



クヌギ林の放牧の様子（左：夏、右：冬）



里山に開かれた飼料畑と放牧利用され疎林で覆われた里山：株元は太く根は大地をしっかりと捉え、地表部はネザサで覆われ、地上部の細かいクヌギで形成される疎林の里山は、台風による倒木や土壌の流亡を起こし難く治山・防災機能を兼ね備える。



〒101-0035 東京都千代田区神田紺屋町 8  
アセンド神田紺屋町ビル 4 階  
Tel: 03-3251-6501 Fax: 03-3251-6507